

平成二十六年 度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 全日制の課程

Ⅱ 国 語

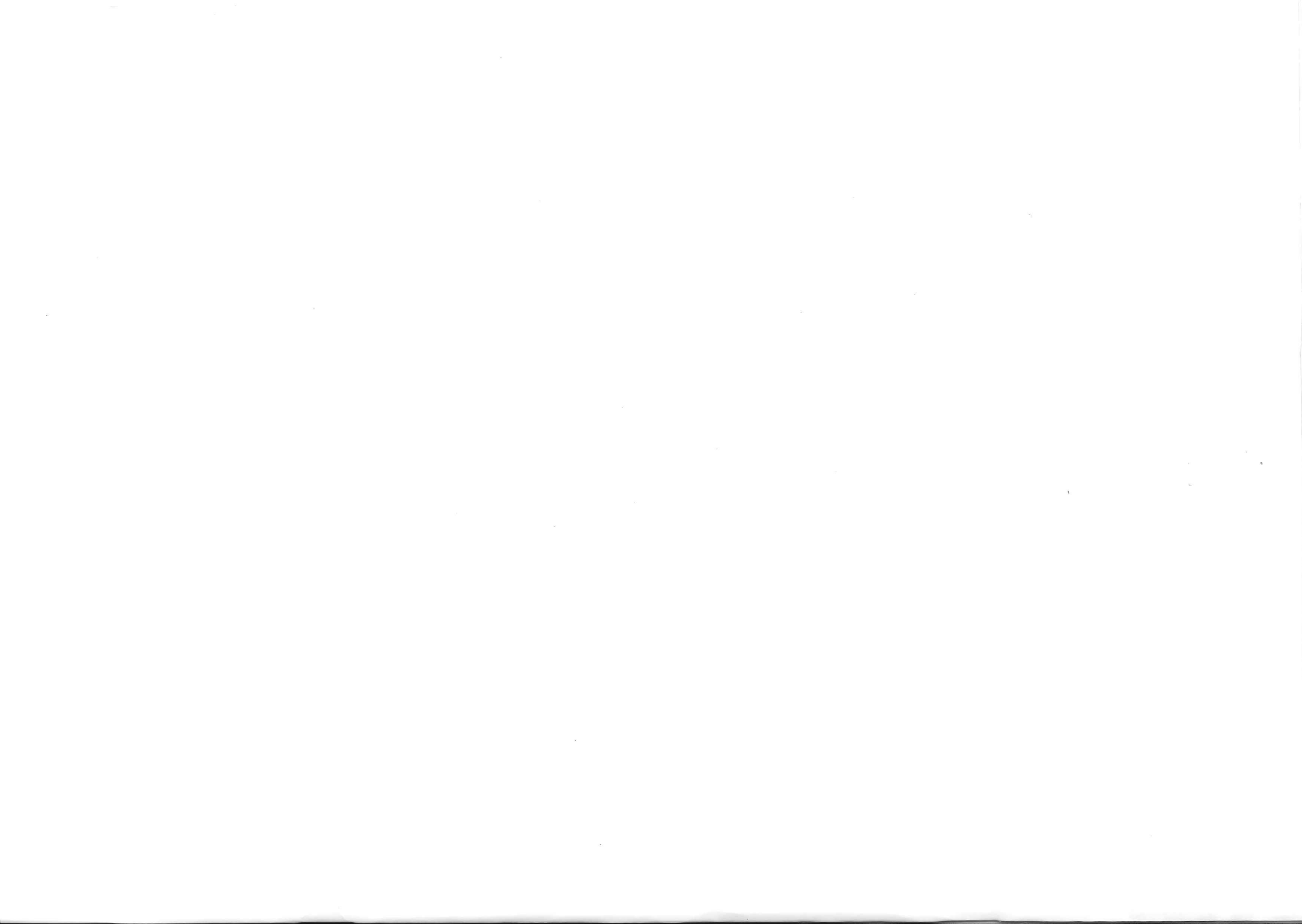
注 意 事 項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は問五まであり、1ページから13ページに印刷されています。
- 3 答えは、解答用紙の決められた欄かどに、はつきり書き入れなさい。
- 4 解答用紙にマス目（例：

）がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 5 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番



問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の各文中の——線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代かなづかいで書きなさい。

- 1 所得と税の額を申告する。
- 2 この地域は養蚕が盛んだ。
- 3 社会に警鐘を鳴らす。
- 4 大地の恵みを食卓で頂く。

(イ) 次の各文中の——線をつけたカタカナを、漢字に直しなさい。(楷書で大きく、丁寧^{ていねい}に書くこと。)

- 1 コピー機で原稿をフクシヤする。
- 2 開校記念の式典でシユクジを述べる。
- 3 その目標を達成するのはシナン^{しなん}のわざだ。
- 4 絹糸で布地をオ^おる。

(ウ) 次の文中の——線をつけた「の」のうち、同じはたらきをするものの組み合わせとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

雪の降り積もった広場で、近所^いの友だちと時^うのたつ^えのも忘れて雪合戦をした。

- 1 アとウ
- 2 アとエ
- 3 イとウ
- 4 イとエ

(エ) 次の短歌を説明したものととして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

(著作権上の都合により省略)

玉井^{たまい}
清弘^{きよひろ}

- 1 虫かごの中で元気をなくした夏の虫たちが秋の草むらに逃れていく様子が、水がしたたるのにとえられるとともに、その弱い感じがひらがな表記によって効果的に描かれている。
- 2 虫かごから飛び出した夏の虫たちが草むらを元気よく跳ね回る様子が、行動する範囲の広さを暗示する「十方」の語と、わかりやすいひらがな表記によって具体的に描かれている。
- 3 夏の虫たちが虫かごから草むらへと力強く飛び出していく様子が、多くの虫を連想させる「十方」の語と、漢字かな交じりからひらがなへの表記の変化によって象徴的に描かれている。
- 4 夏の虫たちが開け放たれた虫かごから逃れていく様子が、草むらの中に緑の水がしたたっていくかのようにたとえられるとともに、ひらがな書きの効果によって印象的に描かれている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「大塔宮（宮）」は、鎌倉幕府を倒すために拳兵したが戦いに敗れ、般若寺に身を隠していた。それを知った敵の兵が夜明け前に押しかけ、寺は五百人余りの兵に四方を取り囲まれてしまった。

宮は透き間もなく取りこめられさせたまひて、（脱出できる方法もなく）御出であるべき方もなくて、すでに御腹を召されんと思

し召して、おし肌腕がせたまひたりけるが、事の叶はざるにこそ腹をも切るべけれ、まず隠れてみばやと

思し召して、御堂へ走り入らせたまひたれば、人の読みかけたる大般若の箱三つあり。（注）二つの箱には御経

入れて蓋を開けず。一つの箱は御経半ば取り出だして、蓋開きたりければ、その中へ飛び入らせたまひて、

御経を引き覆ひ、身を縮めてぞおはしける。

案の如く、兵ども御堂にも乱れ入りて、仏壇の中、天井の上まで、残るところなくさがしたてまつる。

されどもさがしかねて、大般若の箱を開けて、底を返してぞさがしける。元より蓋の開きたる箱をば見る

までもなくて、兵、寺中を出でにけり。宮は不思議の御命を生きさせたまひ、夢のやうにて箱の中におは

しけるが、もしまた帰り来て、なほもさがすことやあらんずらんと御思案あつて、先に兵のさがしつる箱

の中へ入りかはりておはしけるに、案の如く、ある兵立ち帰つて、「先に蓋の開きたりつる箱を見ざりつ

るが、不審に覚ゆ。」とて、御経をうち移して見けるに、からからとうち笑つて、「大般若の箱の中をよく

よくさがしたれば、大塔宮はおはさで、（注）大唐の玄奘三蔵こそありける。」と戯れて、一同にどつとぞ笑つ

て、門より外へぞ出でにける。

（「太平記」から。）

（注）大般若Ⅱ中国、唐の時代の僧である玄奘三蔵（三蔵法師）がインドから持ち帰ったと言われ
るお経（六百卷）。

大唐Ⅱ中国の王朝である唐の美称。

(ア) —線1「御堂へ走り入らせたまひたれば」とあるが、そのときの「宮」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 追い詰められて隠れても無駄だとあきらめた「宮」は、敵の兵に捕らえられたときにこそ腹を切るべきだ、まずは戦ってみようと思って仏殿へ走って入った。

2 追い詰められて一度は腹を切る覚悟をした「宮」は、いよいよどうにもならなくなったときに腹を切ればよい、まずは隠れてみようと思って仏殿へ走って入った。

3 脱出できる方法を失って追い込まれたために腹を切る覚悟をした「宮」は、まずはありがたいお経を唱えて仏に祈ることが大切だと思って仏殿へ走って入った。

4 あまりにもたくさんの敵の兵に囲まれてもどこにも逃げ場はないと思った「宮」は、まずは隠れて静かになつたら腹を切ろうと思って仏殿へ走って入った。

(イ) —線2「先に蓋の開きたりつる箱を見ざりつるが、不審に覚ゆ。」とあるが、その意味として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 先ほどは蓋が開いていた箱だけしか見なかったが、それでは不安だ。

2 先ほどは蓋が開いていた箱は一つもないと思ったが、不注意だった。

3 先ほどは蓋が開いていた箱を調べなかったが、その箱があやしい。

4 先ほどは蓋が開いていた箱を確認したかどうか、覚えていない。

(ウ) —線3「一同にどつとぞ笑つて、門より外へぞ出でにける。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 箱の中に隠れていた「宮」を見つけ出すことができた兵は、「大塔」が「大唐」に化けたと笑つて皆でふざけ合いながら「宮」を寺の外へ連れ出した。

2 箱の中には「宮」ではなく「三蔵」がいたと聞いた兵は、人違いだったことを豪快に笑い飛ばしながら次の場所に向かうために寺を出発した。

3 箱の中からは「宮」ではなく「三蔵」の書いたありがたいお経が見つかったので兵は大いに笑つて喜び、「宮」のことなど忘れてお経を寺から持ち出した。

4 箱の中に「宮」の姿がなかったことを「大塔」と「大唐」の音をかけた冗談にして皆で笑い、兵は「宮」がすでにここにはいないと思つて寺を出た。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 「宮」は蓋の開いていた箱の中に隠れて兵の目を逃れたが、再び捜しにくることもあるだろうと考え、兵が調べたときには蓋の開いていなかった箱の中に移動したところ見つからずに済んだ。

2 「宮」は箱の蓋を開けるとお経を半分ほど取り出して中に飛び込み、体を縮めながらお経を唱えていたところ、ありがたいお経の力が働いて兵は「宮」の入った箱の中を調べずに出ていった。

3 兵は寺の仏壇から天井の上まであらゆる場所を捜したものの、「宮」を見つけることができなかった。たので、「宮」が油断して姿を現すのを待ってからもう一度捜しに来ようと計略を立てた。

4 兵は「宮」の隠れていた箱の中も捜しはしたものの、底の方まで調べなかったために見つけることができず、兵が戻ってきてさらに捜そうとする前に「宮」は寺から逃げ出すことができた。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(平田^{ひらた} オリザ「幕が上がる」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 溝口先生 演劇部の正顧問。演劇の経験はない。

全国 演劇の全国大会。翌年度に開催されるため三年生は卒業してしまふ。

(ア) 線部「回りくどい言い方をやめて、直球で」とあるが、本文中における意味として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

- 1 説明的な言いまわしにならないよう、自分のことばで丁寧に
- 2 言い訳がましい言い方をすることなく、結論だけを正直に
- 3 話の内容が偏った方向にいかないよう、強い口調で明確に
- 4 遠まわしに言うのではなく、本当に伝えたいことを率直に

(イ) 線1「えっと、楽かどうかは。」とあるが、ここでの「私」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 「吉岡先生」の話の意味はよくわからないのだが、先生が緊張しているので、何かよくない話なのではないかとだんだん心配になり、どきどきして不安が募っていくように読む。

2 「吉岡先生」が「私」たちのことを「上手い」と実力以上に評価してくれていることはありがたいが、先生の期待にこたえることは無理だと感じ、困惑しているように読む。

3 「吉岡先生」から緊張した雰囲気の中で急に名指しで尋ねられ、とりあえず「楽」ということばに反応しながらも、先生の真意をはかりかねてとまどっているように読む。

4 「吉岡先生」が真面目に話そうとしていると感じてはいるが、話が要領を得ない上に、「私」たちが思いついているような言い方をしたので、不満をぶつけるように読む。

(ウ) 線2 「きつと前から鳴いていたのだろうけど、沈黙が続いて、私たちは蟬の声に包まれる。」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 「吉岡先生」の話の意図が理解できなくて答え方がわからなかったために室内が静まりかえり、外の騒がしい蟬の声ばかりがきわ立つ中、時間だけが流れて気詰まりな雰囲気になっている。

2 「吉岡先生」の一方的な提案に違和感を感じてはいても何も反論できずにいたためにいらだちばかりが募り、騒がしい蟬の声がそれに輪をかけるように響いて、緊迫した雰囲気になっている。

3 「吉岡先生」の強い口ぶりにはじめは緊張して静まりかえっていたのだが、先生の提案の意味がわかってきたことで、外で鳴いている蟬の声に気づける程度に、落ち着いた雰囲気になっている。

4 「吉岡先生」の話が具体的になるにつれて活動への期待が高まり、ことばでは表現できないものの、静けさの中で気づいた蟬の声にあおられるようにやる気に満ちた雰囲気になっている。

(エ) 線3 「そんなことはわかってるよ、溝口先生。」とあるが、「溝口先生」が自分の経験を例にして演劇部の生徒たちに伝えようとしたことは何か。それを説明した次の文中の I・II に入る語句として最も適するものを、I は、「溝口先生」のことばの中から漢字二字で抜き出してそのまま書き、II は、「溝口先生」のことばの中の語句を用い、文意に合うようにして十字以上十五字以内で書きなさい。

演劇部としてブロック大会を目指すことは、I なことかもしれないが、II ということ。

(オ) 線4 「吉岡先生は、今日初めて、本当に笑った。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 「私」のことは自分の影響を受けて口に出たものであることに気づき、自分が演劇指導したことがきちんと生徒に伝わっていることがわかって、うれしかったから。

2 生徒たちの負担になるといけないのでブロック大会を目指すのはどうしようか考えていたが、生徒たちは思ったよりやる気があると知ったことで、やる気がわいてきたから。

3 演劇部を本気で指導したいという思いを最後に思い切って打ち明けると、「私」から力強いことがまっすぐに返ってきたことで、生徒たちの思いを理解したから。

4 自信はないものの演劇部を本気で指導させてほしいと頼むと、自信に満ちた「私」のことばによって自分が責任をとる必要がないことがわかり、気が楽になったから。

(カ) 本文中に描かれている「私」について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 ブロック大会に向けて練習が増えてしまうと受験にも影響が出るのではないかと心配になったが、「吉岡先生」の熱意に心を動かされて、少しずつ前向きな気持ちへと変わっていった。

2 「吉岡先生」の言おうとしていることがわからず、何も言えない自分をもどかしく感じていたが、「吉岡先生」のことばにつき動かされて、自分の思いをはっきりと述べることができた。

3 これまで演劇部を本気で指導していなかったという「吉岡先生」のことばに失望したが、それが契機となって、これからは自分が演劇部を背負っていかうという自立した気持ちになった。

4 「吉岡先生」に向かつて自分の意見をはっきりと述べられる仲間たちに気おくれしていたが、部長としての責任を意識することで、思っていたことを素直にことばにすることができた。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(浜本^{はまもと} 隆志^{たかし}「窓」の思想史)から。一部表記を改めたところがある。

(注) 谷崎潤一郎二小説家(一八八六〜一九六五)。「陰翳礼讃^{いんえいらいざん}」は日本の光と蔭^{かげ}の文化について書いた随筆。

数寄を凝らした二風流な工夫を施した。

蒔絵二漆で模様を描き、金粉などをつけてつくった工芸品。またその技法。

光琳二尾形光琳(一六五八〜一七一六)。江戸時代の画家、工芸家。

モチーフ二主題。

ノスタルジア二故郷や過ぎ去った昔をなつかしむ気持ち。

融通無碍二特定のことにとらわれることなく自由自在に対応できること。

(ア) 本文中の A・B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------|---|---|------|---|------|
| 1 | A | しかし | B | もつとも | 2 | A | だから | B | すなわち |
| 3 | A | したがって | B | しかし | 4 | A | もつとも | B | ただし |

(イ) 線1「日本の移りゆく瞬間の美学」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

- 1 日本の気候風土のなかで光と影が変化するその一瞬一瞬に美しさを見いだす日本人の感性。
- 2 日本の風物を巧みに利用して、あらゆる光を排除する工夫を凝らした日本建築の美。
- 3 光と影の濃淡どちらかを美しいと決めることを避ける傾向にある日本人の曖昧な美的感覚。
- 4 光と影を明確に分類せず、多様なとらえ方をしようとする寛容にして繊細な日本人の精神性。

(ウ) 線2「日本独特の**ぶい**金色の美しさは、その背景から生みだされたものである。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

- 1 豪華な工芸作品は、薄暗い生活空間で暮らしてきた日本人の生活を明るくすることを願って仕事に取り組んだ、昔の工芸家たちの技巧の集大成として存在しているということ。
- 2 金色をふんだんに使った伝統的な工芸作品は、日本家屋の薄暗い状態で見られることを念頭に、乏しい光の中に金色が、渋く、重々しく見える加減を考えてつくられたということ。
- 3 金銀の装飾を施した日本の工芸作品や襖絵は、透明性を欠く風土にあってどのような場面でも光の濃淡が生み出す美しさを味わうことができるように考慮されているということ。
- 4 派手な蒔絵は、日本人がもつ光と影が生み出す美を愛でる感覚のために受け入れられなかったので、意識的に渋い重々しい色合いに変化させたことが伝統となったということ。

(エ) —線3「自然と一体化して暮らしてきた」とあるが、これについて書かれた次の文の□に入る語句を、これよりあとの本文中から二十三字で抜き出し、その最初と最後の三字をそれぞれそのまま書きなさい。

筆者は、日本とヨーロッパを比較する中で、自然とのかかわり方について、日本人が自然と一体化して暮らしてきたのに対して、ヨーロッパ人は、□立場をとっていると考えている。

(オ) —線4「可変性という開放型の障子」とあるが、障子の可変性が日本人の細やかな自然観を生んだ理由について、次の条件を満たし、全体で五十字以上六十字以内の一文で書きなさい。

書き出しの「障子を開けると」という語句に続けて書き、文末は、「から。」で終わること。これらも全体の字数に入れること。

(カ) 筆者は谷崎潤一郎の文章を引用しているが、その引用の意図について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 日本人の光と蔭の使い分けの巧みさを褒め、暗がりの中で美しさを現す日本の工芸作品について述べていることを引用して、日本人の美的感覚を説明しようとしている。

2 あらゆるものを美しく見せる暗がりの効能と陰翳の美を誇る伝統的な日本建築について述べていることを引用して、日本文化の特徴である繊細さを説明しようとしている。

3 光と蔭を操る日本の工芸家の技術の高さに驚嘆していることについて述べていることを引用して、日本文化とそれを支えた人びとの感性の豊かさを説明しようとしている。

4 床の間のもつ味わいに感動し、暗がりを重んじる日本の歴史について述べていることを引用して、背景にある日本の風土がいかにすぐれているかを説明しようとしている。

(キ) 本文について説明したのとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 障子が日本文化にもたらした影響と、日本の風土と文化の結びつきの大切さの二点について事例をもとに説明し、批判的な立場からヨーロッパ化が進んだ日本の現状について論じている。

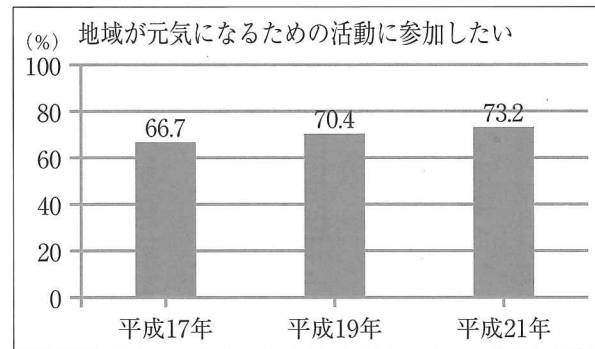
2 文化の象徴としての障子とガラスそれぞれの性質を比較することによって、日本とヨーロッパの違いを明確にし、谷崎潤一郎の文章を根拠として日本文化の再評価について論じている。

3 障子という日本建築の象徴を話題の中心におき、蒔絵とオノマトペという視点の異なる二つの具体例を用いて、わずかな光の加減に味わいを見いだす日本人の美意識について論じている。

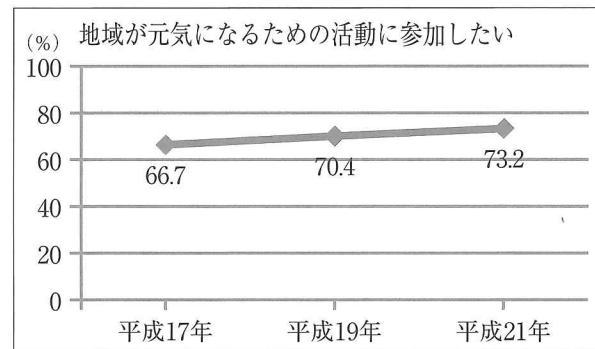
4 障子を題材の中心におき、光と影に関する美意識と、人と自然の一体化という二つの観点から、ヨーロッパの文化との比較を交えて日本の風土、文化、日本人の精神性について論じている。

問五 中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」の発表で使用するグラフの示し方や読み取り方について話し合いをしている。次のグラフ1、グラフ2、グラフ3と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

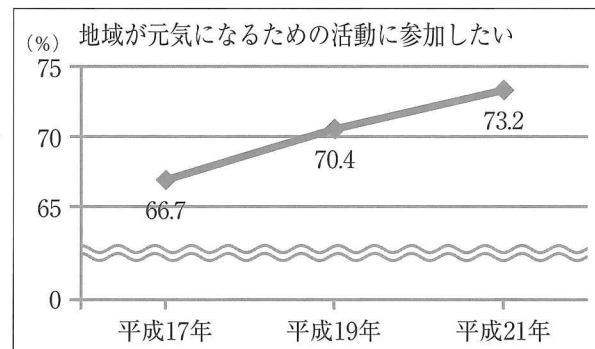
グラフ 1



グラフ 2



グラフ 3



調査人数 平成17年:1551人 平成19年:1667人 平成21年:1919人
内閣府平成21年「地方再生に関する特別世論調査」より作成。

Aさん 私たちは、地域が活性化するためにはどうしたらいいかということを考えてきたのですが、今度の発表で使うグラフを作成していたところ、グラフの示し方について注意しなければならぬことがあることに気がつきました。

住民の意識を聞いた調査結果のうち、「地域が元気になるための活動に参加したい。」と考える人の割合を示すグラフを何種類かつくってみました。同じデータを表したものののですが、Bさん、グラフ1とグラフ2を比べた印象はどうですか。

Bさん グラフ1は棒グラフ、グラフ2は折れ線グラフですが、今回私たちがここで示したいのは、調査の年ごとの変化なので、折れ線グラフの方がわかりやすいように思います。棒グラフでも変化はわかりますが、棒グラフは量的なものを比べるとときに便利だということを讀んだことがあるので、変化に着目するなら折れ線グラフの方がいいように思いました。

Cさん なるほど、目的に合ったグラフの種類に配慮することで、伝えたい意図をはっきりさせることができるということですね。

Aさん 次にDさん、同じ折れ線グラフのグラフ2とグラフ3を比べた印象はどうですか。

Dさん 三回の調査の変化でみると、グラフ2は、参加したいという人の割合が I ように見えるのに対して、グラフ3は、 II ように見えます。

Bさん 確かにそうですね。グラフ2とグラフ3では、縦軸の目盛りの表示の仕方が違うので、見た目の上で折れ線グラフの傾きが変わっています。グラフの表示の仕方に気をつけないと同じデータでも数値の変化に対する印象が変わってしまうということですね。

Dさん ということは、たとえば、私の印象そのままに、グラフ2を使って「住民の参加意識は、ほとん

ど変わっていない。」と説明したり、グラフ3を使って「住民の参加意識は、どんどん高くなっていく。」と説明したりすることで、クラスのみんなに違った印象を与えることもできるということですね。

Cさん そう考えると、ふだん私たちはいろいろなグラフを見たり、グラフを使って説明される機会がありますが、はたして、自分できちんと判断して情報を読み取ることができているのでしょうか。そこで、今度は視点を変えて、グラフを読み取る人の立場から考えてみませんか。

Aさん では、グラフの情報を読み取るときには、どのようなことに注意したらよいでしょうか。

Cさん たとえば、グラフのもとになるデータについて考えたとき、もし、調査の人数が十人しかいなかったら、十人のうちのたった一人の考えの違いで十パーセントも数値が変わってしまうし、同じ考えの人ばかりに聞いたら結果は偏ってしまいます。今見ているグラフの調査では、調査人数がおよそ千五百人から二千人と比較的多いから同じ十パーセントでも数字の重みが違うし、調査の対象となる人も全国から偏りのないようにはらばらに選んでいるということなので、結果も偏ったものにはなっていないと言えると思うのです。

Dさん つまり、調査の人数と対象の選び方とに着目することが大事だということですね。

Aさん ここまで、グラフの示し方と読み取り方という二つの視点で話してきましたが、それぞれの注意すべき点については、Cさん、Bさん、Dさんがまとめてくれたように思います。改めてこれを視点ごとに整理すると、

グラフの

注意する必要がある。

ということになります。

発表する私たちもグラフを上手に使って、説得力のある発表になるように心がけましょう。

(ア) 本文中の **I**・**II** に入れるものとして最も適するものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を書きなさい。

- 1 上昇の仕方が年ごとに急になっていく
- 2 大きく上昇している
- 3 全く上昇していない
- 4 少ししか上昇していない

(イ) 本文中の **.....** に適する「Aさん」のことを、次の①、②の条件を満たし、全体で七十字以上八十字以内の一文で書きなさい。

① 書き出しの **グラフの** という語句に続けて書き、文末は、 **注意する必要がある。** で終わること。これらも全体の字数に入れること。

② 「Aさん」が示した「二つの視点」ことに注意するべき点について書くこと。

(問題は、これで終わりです。)

